

令和 8 年度 第 1 回周南市スポーツ推進計画評価委員会 会議録

1. 日 時：令和 8 年 7 月 16 日（木）19 時 00 分～20 時 30 分
2. 場 所：周南市役所本庁舎 2 階共用会議室 G
3. 出席者：瀬尾賢一郎委員、明石和憲委員、近藤優子委員、藤本真樹委員、
廣林政憲委員、末長裕昌委員、増本森幸委員、中原恵子委員、
永瀬昌宏委員、井澤毅委員

欠 席 者：なし

4. 事務局：スポーツ振興課 貞長、角田、岩岡
5. 傍聴者：なし
6. 会議内容：

開会 事務局が司会進行

- 挨拶 文化スポーツ観光部長 河津 浩之
- 委員自己紹介
- 議事（進行は瀬尾会長）

発言者	発言内容
基本方針 1 スポーツ活動の推進について	
事務局	基本方針 1 スポーツ活動の推進について説明
会長	事務局から「基本方針 1 スポーツ活動の推進」について説明があったが、委員の皆様からなにか質問等があればお願いします。
委員	資料の 7 ページに「行事の際に中学生や高校生のボランティアを募る」との提言を受けたが、実際の取り組みに繋げることは出来なかったとあるが、案内を学校に送ったが誰も申し込まなかったのか。どういう状況か。
事務局	去年の委員会で、久米地区では、地区のイベントの際に太華中学校に声掛けをし、たくさんの中学生に協力を受けているという助言をいただいたが、市のスポーツ振興課が直接イベントを開催する機会が少なく、またスポーツフェスタの際は、周南公立大学の学生からの支援は受けているものの、中学生・高校生といった幅広い形でのボランティアの呼びかけはできていないのが現

	状。 しかしながら、地域のイベントで、地元の中学生や高校生に、参加者としてだけでなく、イベントの支え手としても参加してもらう事は大事な取り組みと考えており、何らかの形で今後生かしていきたいと考えている。
委員	子供たちは一人一台タブレットを持っているので、メールで学校に依頼があれば、子ども達に募集をかけるのは比較的簡単。
委員	久米地区では、久米支所が中学校に呼びかけを行ってくれている。10月に祭りがあるが、その際のごみの分別などでも、参加してくれ頼もしい。役員は、イベント中は他のことをして忙しいが、きちんと分別してくれている助かっている。顔見知りの関係が出来ている。
事務局	資料の6ページで「第7回健康スポーツ教室 in 富田西地区」を紹介した。これは富田西地区の体育振興会引き受けで開催されたが、この時も体育振興員会が地元の中学生に声をかけて、手伝いをしていただいた。今後広く参考にさせていただく。
委員	私は遠石地区なので周陽中と岐陽中に関わっている。以前は地区の運動会の際に募集をしていた。各校30人ずつが来てくれて困ったこともあった位。その時は、学校の方にもそういうボランティアの担当の先生がおられて窓口がしっかりしていたが、今は多分ない。それは、地区が学校とどう関わるかの濃度で、各地区の状況が変わってくる。昨年も岐陽中が参画したいという話があったが、「誰が」「誰に」声を掛けたらよいかというのが分からなかった。 各地区に窓口になる人がいる。そこが、学校の誰と打ち合わせをすれば生徒を集められるかを把握できれば、予定も組みやすい。コロナ禍があったので、これまでの経緯を知らない先生方も多く、地区の方も忘れていらっしゃるので、お互いに意志を持って、通じ合えば出来るのではないかな。
委員	久米地区では、ボランティア手帳というのを持っていて、子どもたちは印鑑を押して貰っていると思う。

委員	私の地区では、市民センターでボランティア手帳を作っている。小学生にも、中学生にもそれを持たせて、印鑑を押している。
会長	そういうスポーツ活動の場に対して、支える側の人間として、中学生や高校生のボランティアを募りたかったということですよね。となると、学校現場や地域がどこと繋がらないといけないうことになるが、そこはスポーツ協会やスポーツ振興課という事で良いのか。
事務局	大きいイベントとしては、スポーツ協会にご尽力いただいている。市は直接イベントを開催する機会が少なく、何かあればスポーツ協会にお願いする形になるのかと思う。
会長	地区のお祭りなどであれば各地域でという事でも良いのかと思うが、周南市全体で考えた時には、そこに対してスポーツに深く関わっているのはスポーツ協会ではないかと思う。スポーツ協会がそことつながりが持てるようになってくると、中学生や高校生のボランティアの確保にも繋がっていきやすいのかと思うが、その辺の仕組み作りは今後可能なのか。
委員	部活動の地域展開に対する業務の中で、ボランティアの制度の構築も課題として受けている。 現在のスポーツボランティアは、山口国体の際に登録していただいた方が継続して残っている形。当時は若かった方も、年々年を取られて、現在では60歳以上の方がほとんど。加齢により、体力的に対応できなくなった方が出てきて、どんどん減っている。 その状況で、現役世代は土日祝も仕事があったりして協力を得るのが難しいとみている。その次に大学生なら、周南公立大学の協力を得られれば、いくらか集まるのだろう。 その下の世代の高校生はどうかという事で、市内の高校の担当の先生から聞き取りをしたところ、「兼部している学生が多く、運動部に所属しながらJRC部にも所属している。そのため、スポーツフェスタの際に協力を依頼しても、急遽学校の部活で遠征が入っていけなくなる状況も発生する」とのことだった。そう

	なると、高校生でボランティアを集めるのも難しい。 中学生は、部活動の地域展開で、放課後の時間が比較的余裕が出てくるといふこともあるので、土日祝に協力してもらえる中学生を集めることが出来るのではないかとはいっている。ただ、この中学生を、いかにリーダーとして育成するかということについてのノウハウがないので、どこからノウハウを手に入れるのが課題。昨年の委員会でも光市での取組の話があったので、参考にさせてもらえれば良いのかとはいっている。 また、スポーツ少年団に「ジュニアリーダー」「シニアリーダー」といふものがある。これまでは、中学校に入ると部活動があるため、小学校卒業とともにスポーツ少年団を卒団していた。今後、中学生が継続してスポーツ少年団で活動してもらえるのであれば、スポーツ少年団での「リーダー育成」は県も県スポーツ協会も行っているため、そこを充実させれば、中学生のボランティアも増えてくるのではないかとはいっている。あとは、そのシステムをいかに構築していくかというところまでは構想ができていふので、皆さんから意見を貰いながら、形を作っていくかといふことを考えている。
会長	実際、もっとボランティアを募集するとなると、どうしても集まる機会もあれば、まったく集まらない機会もあったりする。登録することがすべてではないかもしれないが、ある程度、そういう意思表示をした人たちに対して、いろんな情報提供が出来るような仕組みが出来ていくと良い。 委員の皆様で、そういった情報をお持ちの方はおられないか。
委員	スポーツ協会の女性スポーツ委員会で、いろんなデータを見た時に、ちょっと古いデータかも知れないが、どこの世代が一番スポーツボランティアに興味があるかといふと、20代女性が一番突出して多かった。それを受けて、20代女性にターゲットにして何かをしなくてはならないといふ会議を開催したことがあった。コロナの少し前のデータだったので、再度アンケートをしたら興味深いデータが取れるのではないかとはいっている。子育て世代の女性は、

	抱えているものが大きいため難しいと思うが、動ける女性の世代は置き換わっていくはずなので、何とか追っていただければ。もう一点が、4 ページの「女性がスポーツに参加しやすい環境づくり」のところで、具体的に女性をターゲットとしている。スポーツ協会の女性委員会でいろいろ動いているので、その活動を記載することはできないのか。中学校部活動の地域展開については、事務局があるのでこれだけ大量に資料が掲載されているのだと思うが、女性委員会の方でも「ガールズスポーツ快適ハンドブック」を4 年程前に作成している。これは小中高校生の女性が、いかに快適にスポーツが出来るかという事に特化したもの。これを様々な講習会の際に、指導者向けにも配布し、入口のところでスポーツをしやすい環境づくりに取り組んでいる。そういった活動は掲載できないのか。 もうひとつ取り組んでいるのが、スポーツイベントの際の「託児コンシェルジュ」。スポーツイベントで託児所を開きたい団体に対して、コンシェルジュとして紹介をする取り組みを行っている。周南市で活動しており、環境づくりとして挙げてもらえたら良いと思う。 それと、スポーツ庁の女性役員の目標は4 0 %だったと思うが、本委員会は2 0 %。出来るだけ女性が声を上げられる環境づくりにも取り組んでいただければ。ちなみにスポーツ協会は1 3 %なので、もう少し頑張らなければいけないと思う。
事務局	ありがとうございます。特に、一番初めの女性委員会の取組の部分は、掘めていなかった部分。ここはスポーツ協会とやり取りしていけば、そういった情報は提供していただけるのか。
委員	理事会・評議員会等でも報告はしているが、そこを特化して説明はしていなかった。 先ほどの「ガールズスポーツ快適ハンドブック」のパンフレットは、部活動地域展開の指導者研修会の際、一番初めに紹介し、内容を説明の上配布している。サッカースポーツ少年団の指導者から、「自分の団に何名か女性が所属しているので、何部か提供

	してほしい」との申し出もあった。徐々に広がっていると思う。
事務局	そういったやり取りから始めて、取り組んでいきたい。
会長	先ほどの中学生のボランティアに対する生徒の考えはどうか。興味を持っている生徒はいるのか。どう感じているか。
委員	周陽中学校に限って言うと、自治会ごとにボランティア活動に関わっており、生徒たちは何らかのボランティアに関わっているので、「何かあったら行きます！」というマインドは育っていると思う。
会長	タブレットを各生徒が一台ずつ持っている時代なので、そういった情報が生徒の手元に届くようにしてもらえると、手が上がってくるのかと思う。 光市に関しては、今週日曜日に丁度会う機会があるので、また情報を提供したいと思う。
事務局	事務局から1点。9ページの「これからのスポーツを育む」のところで、「スポーツ推進委員やスポーツ振興委員会の担い手の発掘、育成が課題」と申し上げた。各地区の体育振興会の会長がおられる中で失礼な話と受け取られたかもしれないが、今後日本の人口が減少していく中で、スポーツを「する人」も減少していく。「支え手」についても考えていかなければいけない。市が直接は出来ないことなので、先ほどの「アクティブチャレンジ」のマップワークなど、何とか地域のスポーツイベントを盛り上げて、繋げていけないかと考えている。市が地域の活動を支援していくことについて、良い考えはないか。
委員	スポーツ振興会から。先月の総会の際に思ったことが、地区ごとに温度差があり、やっている地区はやっているが、やっていない地区は全然やっていない。 スポーツは横の繋がりで始めることが多い。「あの人が行くのなら、一緒に行ってやろうか」「誰々に誘われたから一緒にやろうか」「地域の中で運動会などのイベントをやってみて、ちょっと面白いから始めてみようか」とか。きっかけは身近なところの繋がりに始めていると聞いています。

	スポーツ振興会の中で声を上げられていないが、31地区の会長が集まって自分たちの活動の横連携、共有化を図って、自分の地区では他地区が実施している取り組みが出来ないのかと。 例えば、地区の運動会をやめてしまった地区もあるし、逆に今年から始めた地区もある。運動会は、地区住民の中には「面倒だから行かなくても良いよね」という意見も多々ある中でも、横連携を取る中で地域が一体となっていく。それが最終的に防災など、いろいろな事に繋がっていく。そのための起点がスポーツを通しての繋がりだと常々思っている。 振興会の中でも積極的に取り組んでいる地域に発表してもらうなど横連携を図っていければ、市全体のスポーツの発展というか、繋がりも深めていけるし、関係人口も増やしていけると考えている。
会長	育成も含めて、担い手の発掘が課題で挙がっている。振興委員会の中で、この問題に対してどのような考えなのか。
委員	個の活動になっているので、発掘というところまでは、全く出来ていない。総会をやっても、来ない地区はずっと来ない。なので、そういう地区こそ、衰退が著しいのかなということもある。自分の地区は中山間の長穂で、4年に一回、オリンピック年に運動会をやろうといって、5地区が集まって運動会を開催するようになった。2020年の東京オリンピックがきっかけ。でも、自分たちだけでは運営が回らないので、スポーツ推進委員さんに協力いただいて。須金から大道理まで5地区あるが、長穂のグラウンドに集まって。計画から実施まで大変な思いはしたが、やってみてすごく良かったと思った。「毎年やってよ」という声も多々あったが、「毎年やりたいのなら自分達で計画してくれ」と。 来年もまたオリンピック年なので、今から徐々に進めていく。そうした横連携で、地区内では自分が関わる人に声をかけて進めていく。関連する地区でも、知っている人に「やってみたら」という声掛けくらいしかできていない。
委員	これは地区性というものがある。今の話は北部地区で、毎年球技

	大会を開催されている。 昔は、西部とか、東部とか、4 地区とかが集まって球技大会等を開催していたが今はそれが無くなり、北部地区だけが行っている。特に中山間地域は地区の若い人が多く入って活動してくれるが、街中は若い人が活動になかなか参加してくれない。そうしたところもあるので、なかなか地域特性というものがある。 ただ、今から活性化させようと思ったら、今言ったような4つの地域位がまとまって、横の連携を取りながら、球技大会でも、モルック大会でも良いので、何かやって連携するとか。 昔は振興会で年末に1回講習会を開催して、最後に皆で飲み会をやるといったこともやっていた。そういったことを企画してみても良いのではないか。
委員	今言われていた4地区というのは、スポーツに関わらず消防団関係であったりとか、農業関係であったりとか、一つのくくりとして似たような地域になっていくので、そこでよりつながりを深めていけているというのはある、
委員	北部などは、そういう消防団とか青年団とかがあるが、この街中には、ほぼほぼ消防団とか青年団とかはないので、横の個人的な繋がりが少ない。
委員	北部でも、「球技大会とか厳しいよね」と言う地区もある。 「止めるのは簡単だけど、続けよう」と言って、誰が引っ張っていけるかが大きく影響している。一回止めると、再開するのは大変。勝間地区は良く再開した。
委員	遠石地区には青年団や消防団はあるのか。
委員	一部あります。
会長	スポーツ推進委員やスポーツ振興委員会が、各地区のスポーツを支える基盤になっていると思うが、現状こういう課題があると考え、「支える人たち」をどうやって確保していくのかという事が大きな課題になっている。 中学生や高校生だけでなく成人も含めた、ボランティアとしてスポーツを「支える」方々をどのように確保していくのかという

	のは、昨年もこの話題が出たと思うが、課題としてしっかり考えていかないといけない。今後もずっと出てくる課題だと思う。 先ほども部活動の地域展開の話があったが、これから部活が無くなってスポーツに関わる機会を失ってしまう子ども、スポーツをやらないことを選択する子どもが増えてくる可能性がある。なので、すべての世代がスポーツを安定的・継続的に定着させて、自分の健康を図ることが出来るようにするための環境づくりをしっかりと考えていく、そういうフェーズに来ているように思う。 ここでは結論が出ないと思うが、調査なども含めて、まず出来ることからしていただきたい。
委員	今日話す話ではないかもしれないが。衰退と発掘育成という意味で言うと、自治会に、加入しなくなるっていうことと、お金が入らないっていうことで、他の地区はちょっと分からないが、遠石地区で言うと、各地区の自治会単位で体育部長を出す制度があるが、順番で回すので、明らかに動けない人が体育部長として出てくることがある。少しやる気がある人が出てきてほしいというのもあるが、自治会が衰退するとそういう人も出せなくなる。 「自治会って何？」という意味で言うと、「スポーツ関係」と「自治会に関係する部署」というのが「ゴミステーション」や「街灯」がという事よりも、あなたたちが少しずつ納めた会費がお祭りであったり、運動会であったり、その他のことの、言い方が悪いかもしれないが税金のように動いているのだから、あなたたちが会費を納めずに「秋祭りは享受しよう」というのはおこがましいと、ここ2～3年思っている。 もう一点の問題点としては、そういうところで、「体育部長になったから、たまたま関わって…」と言う人が出てくると良いが、そもそもの自治会が衰退して「入らない」という人が多くなると、体育部長の存在も知らない、その先も分からないという事になるので、自治会を改めて昔みたいに戻すのは難しいかもしれ

	ないが、啓蒙して自治会に入ってもら。そこで、チャンスが、どこかに出てくるというのは、広報誌とかで言えば自治会関連が、あなたたちの自治会っていうのはこうこうこういうことで、デメリットも見えるかもしれんけど、メリットがちゃんとあなたたちの目に見えないところであるんだよというような啓蒙をしてもらいたいなと思っている。そこで人の発掘のチャンスがあるのではないかな。 やっぱり、私も横の繋がりで声をかけるっていうのが、ベストではないが、かなりベストに近いベターだと思う。 チャンスっていう感じですね。
委員	先ほどの中学生のボランティア登録。中学生ボランティアっていうのは、親もついてくる。中学生は、中学生同士の横の繋がりで、「あそこに行くから、ちょっと参加してよ」とか、そういうところにも繋げていけたらいいなと思うので、中学生のボランティアは繋げていくことで、もっと増えていくかなと。
委員	今の事で言うと、周陽中に生徒自治会があり、去年も見えていたが、やっぱりどこに声をかけていいか分からない。とりあえず市民センターに声をかけるが、市民センターにあまりやる気がなかったら、それ以上広がらない。 そうすると子供たちのリーダーも、「僕はどこに何を言って、何をすればいいんだ」っていうのが、窓口が分からない。それをサポートする大人もいないとなるので、やる気だけが空回りするので、去年も、生徒自治会のメンバーを見たら、この子のところは絶対やらないなということが、分かってしまう。 なので、そういうリーダーに、補助線というか、アシストをして、「あそこのおじさんに声かけたら、やってくれるよ。あれようやってくれるから」とかいう風にしたら、世話をしてくれる。やっぱりその1回繋がりがないと、難しいと思う。 いきなり知らない人に「お手伝いしたいです」と言われて、「じゃあ来いや」っていう風にはならない。受け止めようとは思いますが。

	その辺が人の繋がり。
委員	今、自治会もみんな入らないし、子供会もなくなるし、そういう横の繋がりがどんどんどんどんなくなっていくから、あの人は誰かって言ったって、全然知らないような人ばかりになる。 僕らもよく学校に行ってはボランティアを頼むが、集まる時は大人数が集まるが、集まらないときは全然集まらない。 割と、子供はボランティアをしたがるが、あんまり多く来てもらっても、大人の方が、指導する人間が駄目なので、あまり良いことにならない。
会長	話はつきませんが、時間も大分来てますので。また今日お話できなかった部分に関しては、事務局の方に入れていただけたらと思います。
基本方針 2 スポーツ環境の充実について	
事務局	基本方針 2 スポーツ環境の充実について説明
会長	事務局から「基本方針 2 スポーツ環境の充実」について説明がありました。その点について何か質問等があればお願いします。
委員	11 ページの②成果・課題のところ、「建設中の新水泳は一般の利用に加えて近隣の学校の水泳の授業で使用することから」と書かれているが、特に教育委員会からそんな話は聞いてはいない。それはもう決定事項ということによろしいか。
事務局	現在、協議を進めておられるので、「どこの学校になる」「どういう形でやっていく」というのはまだ決まってない。 ただ、近隣の学校もこの施設を利用して、授業の中で活用していくというのは、今までも外部に説明してきている。体制について、どういった形で進めていくかということについて、現在、協議を進めて準備を進めているところ。
委員	これは、いつ頃、どこの学校が使うというのが確定するものか。 すべての学校が同じ時期には、多分無理だと思う。そうなったときに、水泳授業の時期をずらして実施していくことになると思うので、年間計画を立てる関係で、できれば早めに分かれると嬉しい。

	いなど。
事務局	今まで近隣の 6 校程度というふうに、教育委員会の方で説明している。実際にどうするかは、教育委員会が各学校に説明して体制を整えていくと思う。
委員	6 校程度というのは、教育委員会が決めるのか。
事務局	学校教育課の方で大体の案は出来ていて、これから各学校の方にスケジュールを示したいという話ではあった。近々、学校教育課の方から話があると思う。
委員	実は、周陽中学校は入れてほしいと切望している。 プールはあるが、大腸菌のために 2 年連続で使えなかった。薬剤はきちんと使っているが、不安がある。ぜひここを使いたいと皆言っている。
会長	秋月中学校の水泳の授業に行ってきた。うちが今プールが使えない状況で、秋月小学校のプールを半分使って中学生のプールの授業を行った。 中学校で他にもそういった、プールが使えない、今後修理の予定が立っていない学校があるのだろうか。そういったところが漏れないで欲しいと思っている。これは学校教育課の方の話なのかもしれないが。
事務局	新しい屋内プールが出来ている段階なので、どうしてもその候補地にあたる学校の修繕には、お金をかけられないというところで、控えてるところがあると思う。 そこから外れる周辺部の学校については、修繕して使えるようにしていると思う。
委員	ちょっとトイレの件が気になった。 和式トイレしかない施設もあるということだが、スポーツするときに、トイレは重要だと思う。普段生活する中でも、「あその公園はトイレが汚いから行きたくないね」というレベルで話をする。新しく改築された、陸上競技場とかプールは全部綺麗な洋式トイレではないかと思う。従来の施設のトイレを全部変え

	ることは難しいと思うが、1 つでも 2 つでも洋式トイレがあることで、利用者も施設を利用しやすくなるのではないか。
事務局	おっしゃる通りだと思う。 先ほどおっしゃった女性の、スポーツの実施率というところに関して、その女性用トイレが様式か和式かというのは、非常に大きなことと思っている。 今回、鹿野総合体育館に着手したが、熊毛にも必要。多目的トイレはあるが、一度に予算がつかないので、計画的に進めていく必要がある。
会長	おそらく、今後計画的に進めていくと認識していれば良いか。
事務局	そうですね。計画はまだ立てられていないが。 これで言うと、すべての公共施設が該当してくる。その中で、優先順位をつけていく。当然、我々が所管している施設に対する洋式化の予算要望は上げていくことになる。
委員	中学校の地域展開で、今、どの位の生徒が地域クラブに所属しているか、実数が分かるか。今までクラブに入ってスポーツをやっていた人が、どの位変動したのか。
事務局	まず参考として、令和 8 年度の中学校部活動には、生徒数が 3, 1 4 2 人いる中で、約 5 割が部活動に加入している。今年の夏の大会で部活動が終了することから、3 年生の加入率が高く、下の学年ほど加入率は低くなっている。 今年度は地域クラブ加入数の調査をまだ行っていないが、昨年 9 月に各地域クラブに対して調査を行っており、市内の中学生が 2 7 2 人、市外中学生が 6 9 人、全部で 3 4 1 人と報告を受けている。小学生は市内が 2 6 7 人。 今後調査が実施されると思うが、これ以上の最新の数字は持ち合わせていない。
委員	調査は実施されているのか。
委員	今から実施すると思う。 現在は移行期間。部活が無くなって、今からどうするかというの

	は、この夏休みに入って動きが出てくると思う。推進室から、9月以降にそういうアンケートを取ろうと言われている。
委員	8月には、ほぼほぼ部活が終わるから、それ以降になる。 ただ、市内では、この夏休みの間にどれだけ子供がたむろするかということが問題になっている。
事務局	この数値に関しては、あくまでクラブ側に聞いて回答があったもの。回答率もやや低いので、これほど低くはないのではないかなと思う。実際、スポーツ少年団の加入率が3割から4割と言われており、それぐらいまで下がることも予測される。 今までは、部活動での活動内容が高校入学の際の評価の一部になる場合もあり、加入が強制のような印象だったが、そういったこともなくなるので、今後は「入らない」ということも選択肢に入ってくる。
委員	今、桜田とか福川から電車でここまで来ている生徒がいる。電車が遅れたりするとものすごい時間になる。それで、バスとか出せないかという話がある。 学校が終わってから電車に乗ってくるのだが、指導者は来ているが生徒が来ないので、駅まで迎えに行かないといけないこともある。こういったことも考えて欲しい。
事務局	移動支援の話だと思う。周南市では、活動場所が決まったところがない。移動支援を実施しようとする、学校を拠点にある程度クラブを決めて、そこを回すということは可能になると思う。防府市や長門市はそういうことをされている。 周南市は、自由に選択できることを重視して、そういった方向性を選択してこなかったのが、移動支援は難しい。ただし、自転車での行き来については柔軟に認めていくことになっている。
委員	種目が陸上で、陸上競技場もあるが、サッカーが使用を独占して陸上競技場ではないような感じになっている。サッカーはサッカー場があるのに、陸上は火曜と木曜の2日くらいしか使えない。そのため練習日にはものすごい人数で、危ないような状況のため、うちは一切使わない。

	それと、利用するのにお金が結構かかる。中学校が練習をするといってもお金がかかる。親が入場するのにもお金が必要。
事務局	陸上競技場にはコンベンション的な機能もあり、もちろん公式な大会も出来るような造りになっている。あくまでも町中だから練習にも使用できるが、周辺部にはそれはない。練習の場所としてどうかというのは、考えていただきたいと思う。
委員	ここに拠点をおくと、遠くから来ないといけない。近隣の子どももいるということで、結構苦労しているようだ。
事務局	今、中学生の行き来というのは、市外を越えて動いているケースもたくさんある。
委員	自転車の問題もあって、1 km で学校に出せとかがあるが。
事務局	移動支援は、今の周南市の形で言うとなかなか難しい。
委員	親も仕事があって、ということもある。
会長	そこに対しても、何か方策を考えていく必要がある。 12 ページの表を見ても、地区ごとにいろいろな種目が出来ているところもあれば、そうでないところもあるので、自分が居住している場所によって、スポーツに関わる機会や選択が奪われないようにしないといけないと思う。昨年も課題に挙がっていたように思うので、継続的に検討していかないといけない課題だと思う。
委員	14 ページのスポーツツーリズムについて。 私は関わりが無く、情報を知らないが、大会があった時は、観光や夜の飲食店は賑わっているのか。実際のところどうなのか。
委員	例えば、15 ページの「吉岡杯」は、前日というか、試合があった日の夜は、同じような体形の方々が町へ繰り出しているので、かなりお金を使われているのではないかという印象がある。 その一つ上の「ひのまるキッズ」は親子で参加する大会で、その指導者もついてくる。中国・四国大会となっているが、遠いところは北海道から参加している子もいる。「ひのまるキッズ」は中四国だけではなく全国各地で開催しているので、ステイタスで

	はないが、中四国大会に出たら九州大会にも出ているご家庭もあるようだ。それで、試合のついでに、その街を散策するということはあると思う。 その他に「中国ベテランテニス」は高齢の方々なので、飲みに行くことが多くなることから地元にとすお金の額が変わってくる。この大会も中国と言いながら、全国から来られている大会ではある。
委員	こういう方々の飲食については分かった。 じゃあ、観光地的なものはどこに人気があるとか、ここへ行くとかということはあるのか。
委員	今までスポーツボランティアで紹介するのは、動物園などだった。総合スポーツセンターから移動できる距離になってくるので、どうしてもそのあたりになってしまう。そのため、宿泊して飲食をするというのが主になってしまう。 大津島までご案内するとなると、大津島巡航の運行時間的なタイムスケジュールもあり、試合が終わってから移動するとなると、夕方なので島に渡れないということになる。その辺の観光資源というところが。後は工場夜景。
会長	何か他にご意見があれば、事務局の方にお寄せいただきたい。
その他	
事務局	この評価委員会について、スポーツ推進計画は計画期間を10年としており、中間の5年目に見直しをする。 そのため、最初の3年間は本委員会からご意見をいただき、その後の2年間で評価をしながら策定作業を行うことにしている。 今年は2年目なので、来年も同様な形でご意見を頂戴したい。 事務局としては、本日頂いたご意見、ご助言を基に取り組みを進めていきたいと思っており、今後ともよろしくお願いしたい。
会長	座長の立場であれなのだが、1点だけよろしいか。 12ページの一覧表は、中学生が今後、スポーツができる環境の実現っていうところに対して、今これだけの周南市内にクラブがあるという表示になっているが、この中で小学生から受け入

	れが出来るクラブはどのくらいあるのか。 要は、これから部活動がなくなって中学生が地域に移行していく。その中学生は、初めてスポーツをするという子もいれば、小学生段階からそのことを見据えて、日常的に活動を行っていく子もいると思う。これまでは、スポーツ少年団であったり、民間のフィットネスクラブであったり、スポーツスイミングだったりとか、あったかもしれないが、こういったものが、中学校に入ってからこのこれまでの部活動を見据えて、小学生段階からスポーツを行っていく、そういったフィールドが必要になってくると思うが、そういったものが、現状どれくらい開かれているのかが、今この数字からちょっと見えない。もし可能であれば、概要だけでも構わないので教えていただければありがたい。
委員	例えば、サッカーとか軟式野球、バレーボール、バスケットボール、陸上もそうだが、もともと、小学生を対象にスポーツ少年団として活動されてきて、対象が中学生に変わると、どうしても、規格が変わってくる。バレーボールでも野球でもボールのサイズが変わったりとか、プレイするコートのサイズが変わったりしてくる。それで、同じ指導者が、スポーツ少年団とは別に中学生の部門を立ち上げられたケースもあり、そこは繋がりがあるのかなと思う。 武道系については、幼稚園の年少の頃から受け入れられているところもある。関わっている指導者の方も、やはりスポーツ少年団を指導されていて、そのまま地域クラブの中学生の部門を立ち上げられたパターンもある。 そういう状況なので、多少は数字が減ると思うが、その辺の移行に関しては、少しは進んでいるのかと思う。ただ、硬式テニスや硬式野球は、規格が小学生にはなかなか出来ない競技なので、なかなか難しいのかなと思う。
会長	サポートセンターが公開しているような情報が、もちろんその小学生向けに公開される必要もあると思うし、それが小学生の手元に届くような工夫などもこれから必要。それこそ、タブレット

	トの話もあったが。
委員	タブレットには既に入っており、閲覧することはできる状況だったが、市の教育委員会のPRの仕方が悪く、入っているのに誰も開いていない状況だった。 そのため、この4月から生涯学習課がコミュニティクラブの説明に行くのに合わせて、スポーツ協会と文化振興財団が同行し、タブレットのここにアイコンがあるので、ここを開くようにと説明した。まだ小学生には我々が行っていないので、おそらく伝わっていないと思う。 そのアイコンがあっても、怪しいホームページは開かないように指導されているので、多分まじめな子は開かないと思う。そこをいかに小学生にPRしていくかが課題。
会長	小学生が見た時に、「活動できる」「これはちょっと難しい」というものがわかるような、そういった表記にこれからシフトして行っていただきたいと思う。
事務局	こちらが、サポートセンターのポータルサイトで、ここから、希望の種目などから団体を探せるようになっており、中学生のタブレットのアイコンから開くことが出来るようになっている。 スポーツに関しては、センターの立ち上がりということで、これまで中学生を受け入れるクラブを対象にしていたが、ゆくゆくは大人や小学生などに対象を広げていくことを予定していた。 ポータルサイトでも、世代毎に検索することが出来るようになることが見込まれる。 地域クラブの所管課がスポーツ振興課から変わったため、今後は地域クラブ推進室が進めていくと思う。
会長	まさに、そういうフェーズに来ていると思う。ぜひよろしく願いします。今日、委員の皆様から、様々なご意見をいただいたので、事務局の方は、ぜひ、今後の取組の方に活かしていただきたい。